GIGAスクール構想推進のための指導案例（全校種 全教科・領域共通）

（例：中学校英語科　SUNSHINE ENGLISH COURSE ３　PROGRAM ６）

６　本　時（第７時）

(1) 目　標

自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について紹介する文を書くことができる。

(2) 展　開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体の評価規準	評価方法
５分	１　挨拶・ウォームアップをする。	・簡単な Q&A や Small Talk により，英語の授業の雰囲気づくりに努める。		
10分	２　セクション１～３の内容について復習する。	・これまでの授業で配付し，生徒が各自タブレットに保存している地図や写真，表などを見ながら音声を聞かせ，セクション１～３の概要を再確認させる。 ・電子黒板で画像を提示しながら Q&A を行い，本文の正確な内容を確認させる。		
５分	３　ボイヤンさんの取組についての感想を発表する。	・ボイヤンさんの取組について感じたことを，タブレットのノートに書いて共有させる。		
20分	**４　自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文をタブレットのワークシート書く。**	**・前時に作成したマッピングを用いて，自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文を，入力スキルの差に配慮しながらタブレットのワークシートに書かせる。** **＜評価のポイント＞** **・関係代名詞などを用いてまとまりのある英文が書けているか。** **・聞き手・読み手を意識した自然なつながりの文章になっているか。**	**知・思・態** （各教科・領域の記入例で）	**作品**
10分	５　本時のまとめをし，次時の予告と家庭学習の確認，挨拶をする。	・作品をいくつか紹介し，優れた表現を共有するとともに，次時の予定（紹介文の発表）とその準備（家庭学習）をしてくることを伝える。		

情報活用能力の評価規準は記入しない。

１人１台タブレット端末等をメインで活用した場面を太字で記入し，枠で囲む。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について，関係代名詞を含め既習表現を用いたり，主体的に辞書等で調べたりしながら，まとまりのある英文で正確に書くことができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	関係代名詞を使って書かれた，ものや人を紹介する文を例示したり，単語や表現したいことを辞書やタブレット端末等を使って調べる支援をしたりする。